

**市民の大阪湾に対する意識に関する  
アンケート結果  
— 阪南市を事例に —**

**大阪府立大学 現代システム科学域  
黒田 桂菜, 大塚 耕司, 下村 泰彦**

**目的:**

大阪湾のイメージ, 魚食, 訪問頻度 ⇔ 世代や居住地域  
関連性の把握

**方法:**

市民アンケート調査



生態系サービスや人間活動などの評価  
沿岸域の総合的管理

**目的**

対象	阪南市民
配布方法	3,000世帯へ手配り 2015年7月20日, 26日
回収方法	郵送
内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 性別, 年齢, 居住地域</li> <li>2) 大阪湾に対するイメージ(5段階評価)</li> <li>3) 大阪湾沿岸域への訪問頻度</li> <li>4) 大阪産水産物の購入の有無</li> <li>5) 大阪産水産物の魚種</li> </ol>
回答数	1,044 世帯 (回答率: 35%)
解析	「性別」「世代」「居住地域」によって差があるかについて有意水準5%で検定 ( $\chi^2$ 独立性の検定)

## アンケート概要

地区名	配布地域	配布数	回答数
尾崎	尾崎 1～8 丁目	400	127
西鳥取	新町, 鳥取, 舞 1～4 丁目, 光陽台 6～8 丁目	650	208
東鳥取	石田, 鳥取中, さつき 台, 緑ヶ丘, 下出, 黒 田, 自然田	1280	160
下荘	桃の木台, 箱作, 箱の 浦, 貝掛	670	393

## アンケート配布地域と配布数



**エリア1：  
昔ながらの漁村地域**

尾崎漁協

南海電車

西鳥取漁協

国道26号線

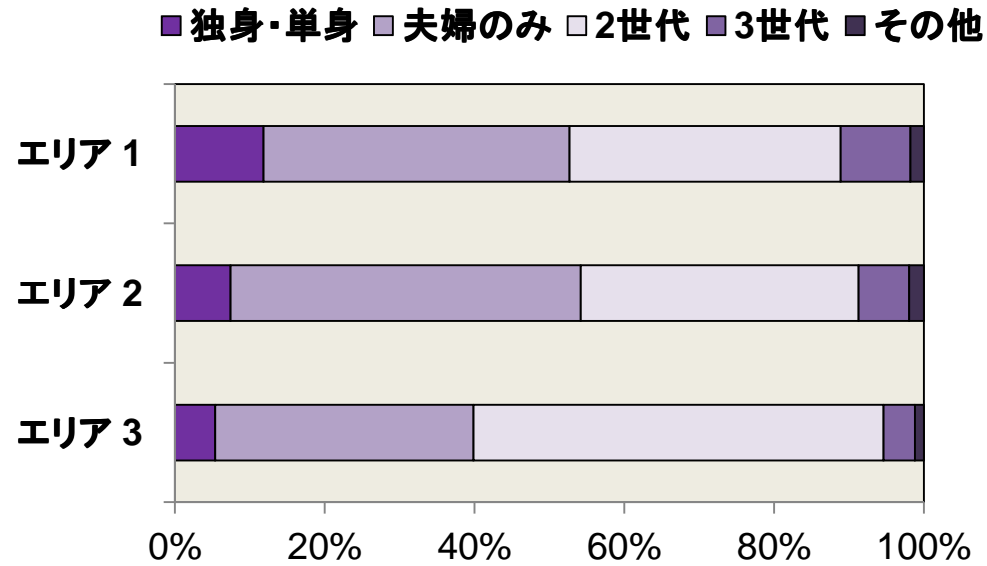
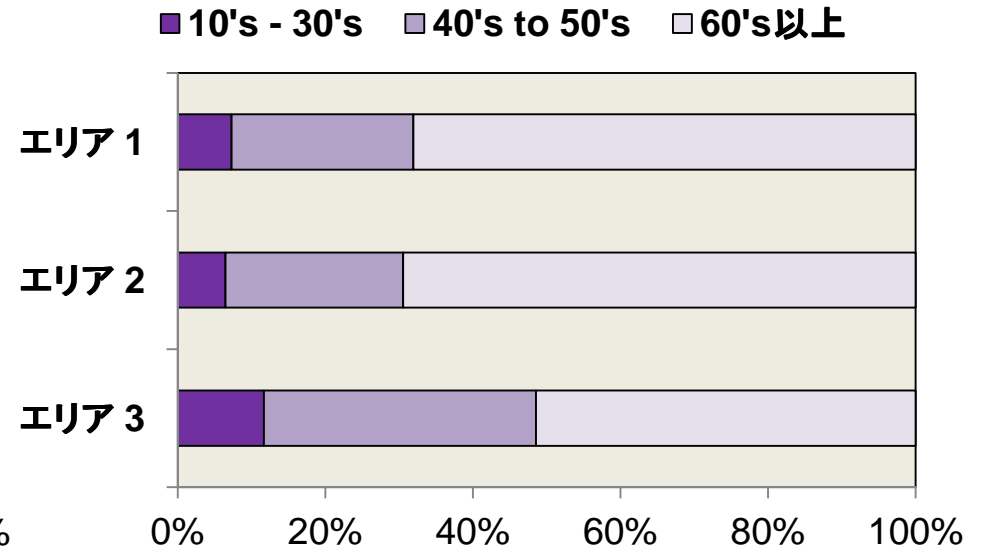
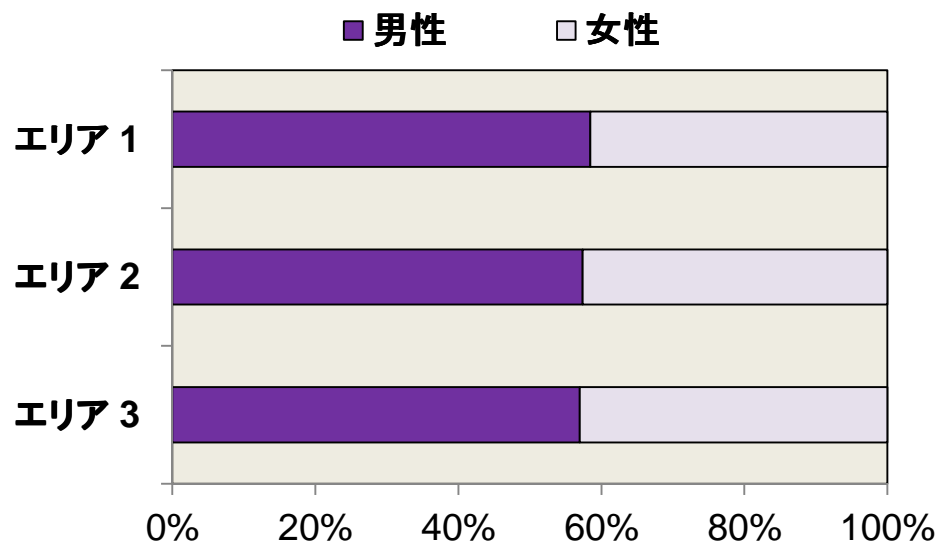
下荘漁協

第二阪和国道

**エリア3：  
住宅開発エリア②  
90年代～**

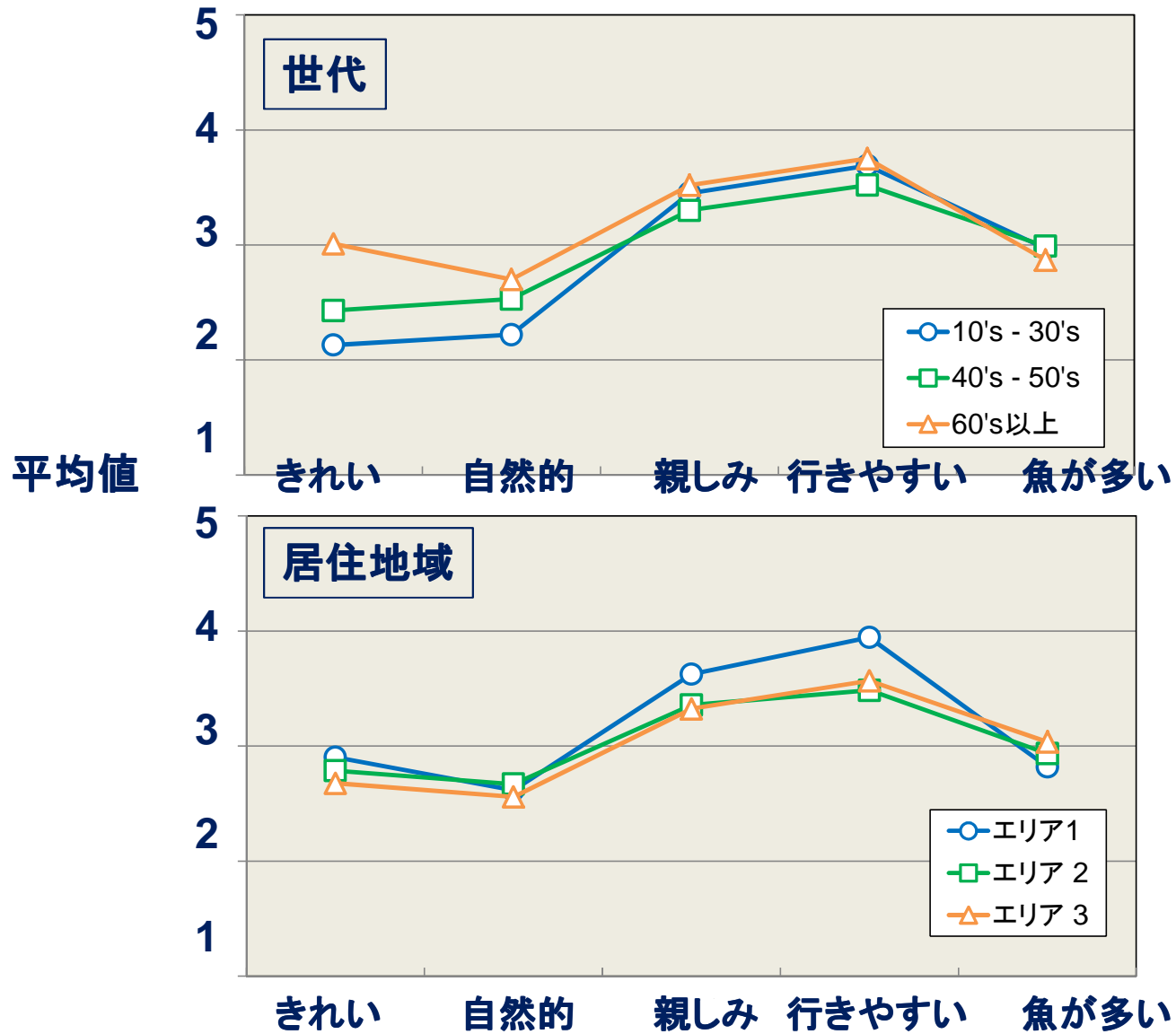
**エリア2：  
住宅開発エリア①70年代～  
(昔ながらの農村地域もあり)**

Google mapより



## 回答者の属性

# 5項目の5評価項の形容詞対を用いたSD法により評価



## 大阪湾のイメージ

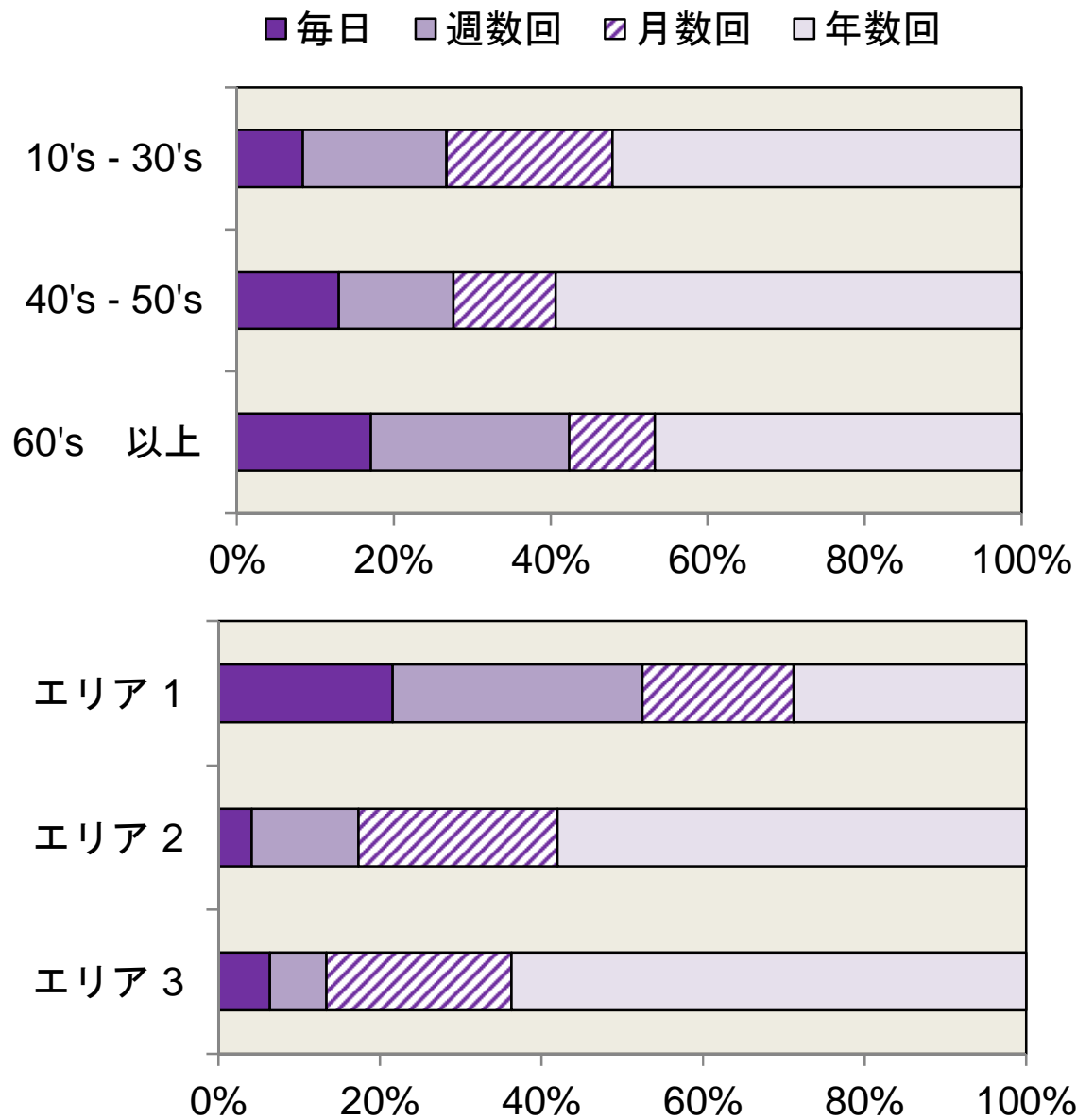


	きれい きたない	自然的 人工的	親しみがある ない	行きやすい 行きにくい	魚が多い 少ない
世代	◎	◎	○	○	×
住まい	○	×	◎	◎	◎

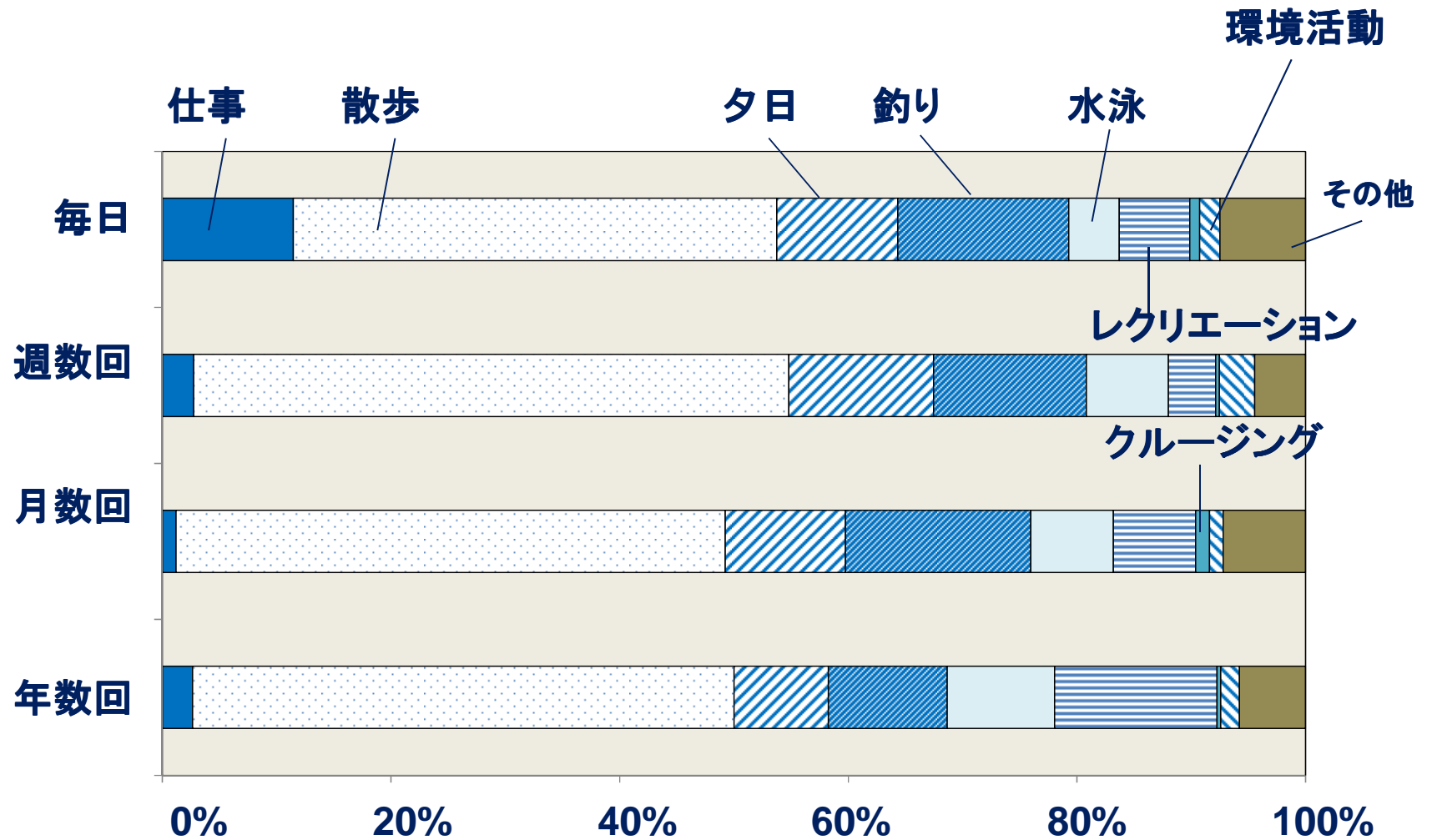
◎ : 関連性あり ( $p < 0.01$ ), ○ : 関連性あり ( $p < 0.05$ ), × : 関連性なし

- 世代が高くなるほど, 「きれい」に対する評価点が高くなる
- 「自然的・人工的」の世代間の評価点の違いが顕著
- 海に近い住まいほど, 「親しみ」「行きやすさ」の評価点が高い
- 全体的に, 「きれい」の評価点は低いが, 「親しみ」の評価点は高い

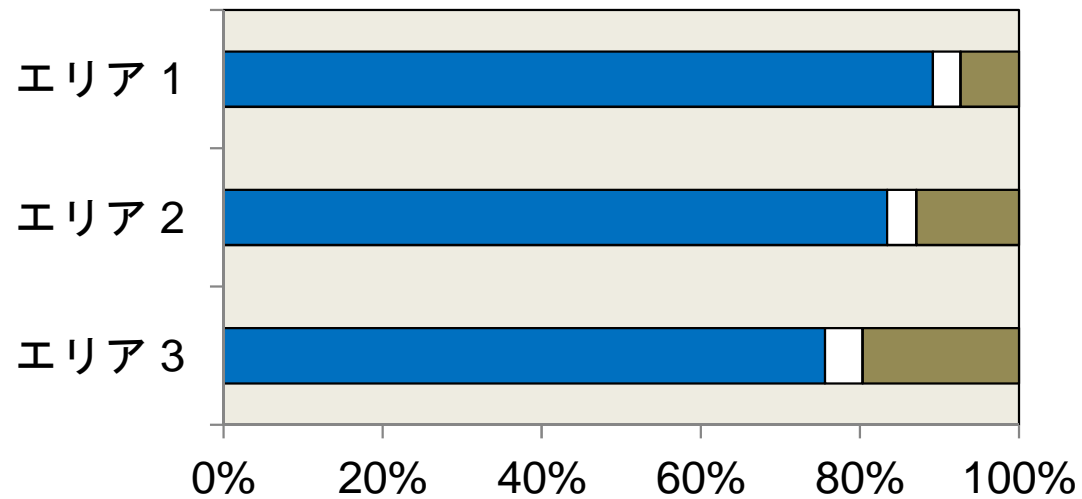
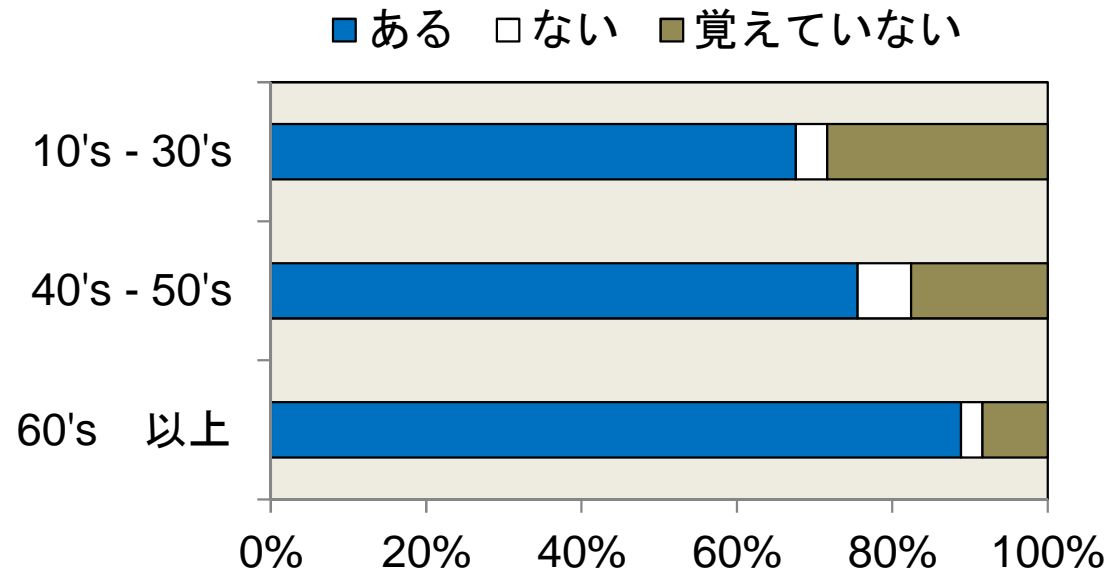
## 属性との関連性



# 大阪湾沿岸域への訪問頻度

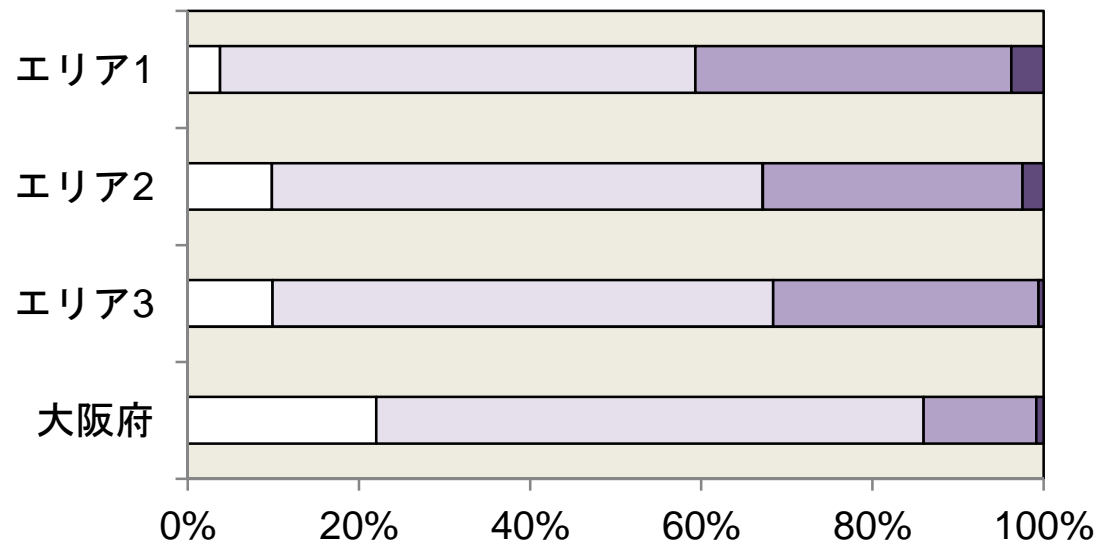
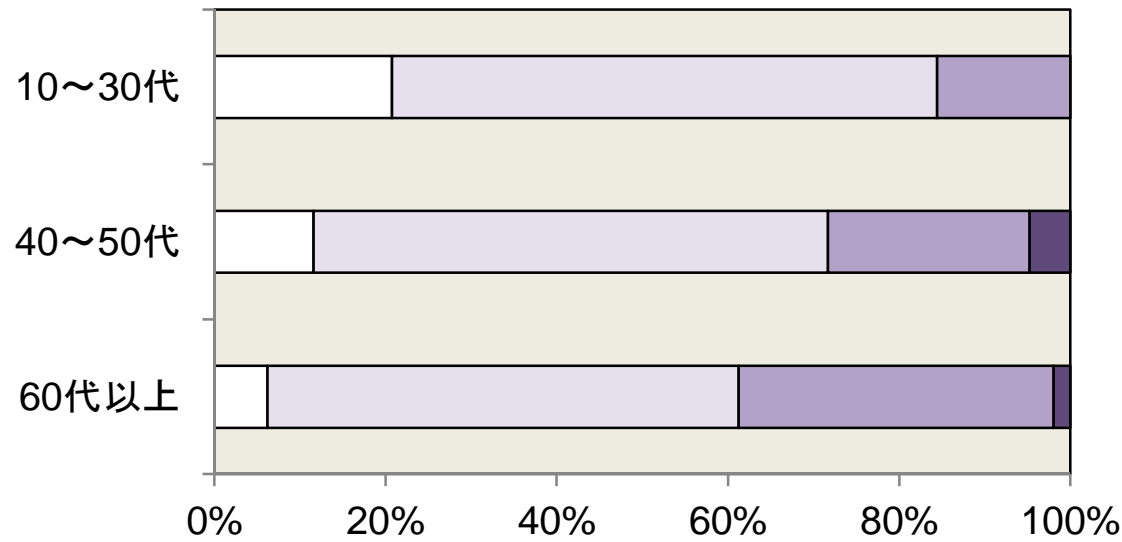


# 大阪湾沿岸域への訪問理由



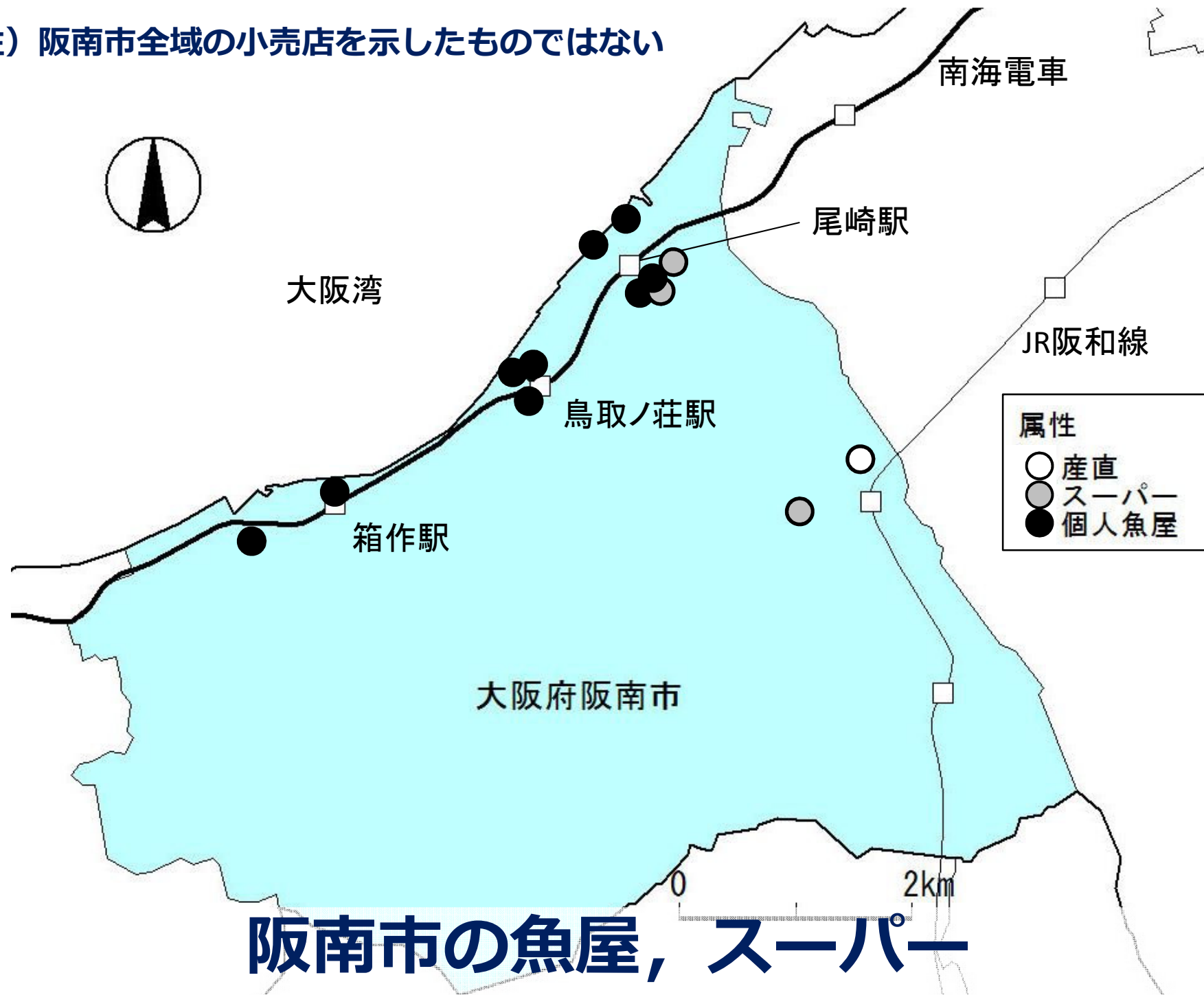
## 大阪産水産物の購入の有無

□0種類 □1~10種類 ■11~20種類 ■21種類以上



# 大阪産水産物の魚種の認識

注) 阪南市全域の小売店を示したものではない



## まとめ

- **大阪湾へのイメージは、世代や居住地域が関連する傾向**
  - ・特に「きれい・きたない」「自然的・人工的」で世代間の差がみられた
  - ・居住地域が海に近いほど、「親しみ」の高評価が増えている
- **大阪産水産物に対する意識は市全体で高い**
  - ・大阪産水産物の購入の有無は、世代や居住地域と関連している
  - ・府民の平均よりも高い魚種数を答えられる
  - ・阪南市の魚の販売店の特徴

## 今後の課題

- **対象地域の拡大**
- **大阪湾の変遷に伴う原風景との関連（心象風景）**
- **環境学習による市民の意識の変遷との関連**

## まとめ

**本研究は平成26年度日本沿岸域学会研究グループ助成および平成27年度大阪府立大学地域志向教育研究補助金により実施しました。**

**アンケートに回答いただいた阪南市民の方々に、心より感謝申し上げます。**

**発表論文：**

黒田桂菜，大塚耕司，下村泰彦，  
市民の大阪湾に対する意識に関する研究—阪南市を事例に—  
日本沿岸域学会誌， Vol. 29, No.1, pp.27-38, 2016